

様式4

令和7年度第3回

富士見市生涯学習推進市民懇談会

議事録

日 時	令和7年10月31日(金) 開会 午前10時00分 閉会 午前11時05分								
場 所	富士見市立中央図書館2階 集会室								
出席者	参加者	出井(隆)氏	新井氏	木原氏	佐々木座長				
		欠	○	欠	○				
		出井(あ)氏	山崎氏	深瀬氏	小谷氏				
		欠	欠	○	○				
	事務局	生涯学習課 課長、主任							
公開・ 非公開	公開(傍聴者 1名)								
議題	1 開 会 2 あいさつ 3 内 容 • 第4次富士見市生涯学習推進基本計画の骨子案について 4 そ の 他 • 次回開催について 5 閉 会								

議 事 内 容

	<p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ 佐々木座長からあいさつを行った。</p> <p>3 内 容 事務局より第4次富士見市生涯学習推進基本計画についての説明を行った。協議内容は以下の通り。</p>
座 長	何か質問等があるか。
参加者	K P I と K S F については、上位計画の考え方が一般的なものと違うということか。
事務局	富士見市の定義として掲げており、市としての整合性を合わせるため上位計画に合わせている。
参加者	上位計画の名前を教えてほしい。
事務局	第6次基本構想第1期基本計画である。第4次計画のP 2にも記載されている。来年度から第2期基本計画であるが、定義自体は第1期計画から引き継がれている。
参加者	上位計画での定義のことだが、ぜひ今後見直してもらいたい。また、感想のようなものだが、基本目標④の⑥児童生徒の学習施設としての機能充実も掲げられているが、ピアザや交流センターなどのフリースペースを学習スペースとして周知してしまうのは、フリースペースとしての機能が制限されてしまうように感じる。学習方法には、静かに学習するだけでなく、ワークショップのような人の考え方を聞いて話すものもある。学習スペースとして決めてしまうと話し合いを行う学習ができないのではないか。日頃から浦和にあるパルコ9階の広大な自由に使えるフリースペースのような空間が近場にあればいいなと思っており、ピアザふじみなど学生が静かに勉強している空間では、話し合いなどが気軽にできないと感じている。自分自身、市内で少し打合せしたいなと思っても、富士見市の気軽に話せるスペースの少なさを感じており、⑥については個人的に気になるところである。基本目標③で市民間交流の促進が掲げられているが、これはフリースペースの機能を限定してしまうと阻害されるのではないか。
事務局	ここでのフリースペースについては、空き部屋をイメージして記載しているものであり、交流コーナーを想定したものではない。
参加者	ここでのフリースペースは交流コーナーではないのか。

事務局	談話室や交流コーナーのような誰でも自由に入りができる空間ではなく、未活用の部屋を想定している。実際に南畠公民館の談話コーナーで小学生がグループワークのような話し合いや、勉強の教え合いをしている例もあるが、イヤホンをして静かに勉強している中・高校生もいる。勉強をしている学生がいるから、他の利用者が遠慮して、話し合いや打合せができないというのは本来の目的である市民間交流からも離れてしてしまうので、その住み分けは考慮しつつ推進していきたい。
参加者	その考えであれば、フリースペースという表現ではなく、空き教室や空き部屋などの表現に変更した方が良いだろう。フリースペースというと誰でも自由に入りできる空間であり、ピアザふじみのように学生たちが静かに勉強しているものをイメージした。
事務局	表現の変更については、持ち帰り検討する。
参加者	鶴瀬西交流センターの交流コーナーなどは、話し合いなどで使っていいのか。
事務局	そこについては現在各施設の運用になるので、鶴瀬西交流センターに確認いただくのが確実である。
参加者	この計画について考えるこの場は、交流センターなどのあるべき姿について話し合う場であると思っている。運営側にも交流スペースについての考え方を周知してもらい、施設によっての運用の違いを是正してほしい。
事務局	この計画の大きな目的に一つとして教育部が所管している公民館、資料館、協働推進部が所管している交流センター、コミュニティセンターなどどうしても縦割りになりがちであり、それを無くし、ベースを整えていくことであり、計画の推進の過程でそのような考え方なども周知・共有していきたいと考えている。
参加者	P 3 6 の府内での連携体制の充実について、情報共有して連携して問題解決を図るとあるが、セミナーやイベントを開催する時に、託児サービスや手話通訳者派遣などお願いすることがあると思う。市全体で取組を盛り上げていくという考え方から、託児サービスを委託するのではなく保育関係の部署と連携して、保育ボランティアを紹介してもらうことや様々な方法ができるのではないか。情報発信も含めた具体的な取組も書いた方が良いと考える。この計画は5年後このようにしていきたいというものを掲げているものであり、5年後になるとデジタル化が進んでおり、人の手がもっと重要なだろう。その時に優しい取組があつてもいいのではないか。
事務局	例えば子育てに関する事業を展開しているところでは託児サービスを行うのは当たり前のところもあるが、そうではないところもある。そういった部分を、担当者会議で情報共有を行い市としての一定水準を図ることを意識したものである。手話通訳の派遣については、障がい福祉課が

	管轄しており、社会福祉協議会に依頼するということが庁内のルールがあるが、それも把握していない場合もある。
事務局	今回新規に担当者連絡調整会議を設けた大きな目的として、市の職員も毎年新しい職員が入ってきており、全員に事業運営のノウハウがある訳ではない。しかし職員によって事業の差を生まない為にも全体のベースアップを図る必要がある。例えば託児サービスについて、公民館であれば、子育てサークルや子育てサロンのスタッフが協力している例もある。情報共有をするだけで問題の解決や、新たな人材の活用にもつながる可能性もあり、情報発信についても、お互いの状況を把握することで市としてのベースアップを図ることができると考えるため、会議の運営についても計画全体の推進を意識して行っていく。
座長	託児については、公民館で事業を行う時は子育てサロンに協力いただくこともあると思うが、以前児童館では託児ボランティアと協力した事業をやっていなかったか。
参加者	現在は職員がやっていることがほとんどである。以前は託児ボランティアサークルがあったが現在は活動していないため、ここ5～6年は職員が行っている。
座長	かつては交流センター等で託児ボランティアを児童館へ依頼することもしていたが、そのボランティアサークルは高齢化などの影響で活動をやめてしまったのか。
参加者	8年くらい前は依頼していたが、そのサークル自体が現在活動していない為、保育を依頼できるサークルは把握していない。市でも保育をする担当課があるのではないか。
事務局	現在は把握できておらず、そのようなことも情報共有を図ることで課題解決につながると考える。様々な方法を共有することにより、課題解決だけでなく推進にもつながると考えている。
参加者	P32のICTを活用した学習機会の充実について、それに直接関係するわけではないが、富士見市が開催する様々な事業について、時間の制限や様々な事情により直接参加できない方もいるため、出来るだけオンライン配信を推進してもらいたい。
事務局	事業の動画配信については、P32に記載しているが、特にセミナーなどを中心に検討していきたい。個の学習の推進は様々な制限により参加できない方もいる。そのような方への学習意欲や興味の発掘にもつながると考えている。実際に公民館で、市民人材バンクに登録されている方に協力いただきイベントのオンライン配信を行った例もある。そういうものや需要も踏まえて、検討を進めていきたい。
参加者	難しい話になるが、例えばP44に「コミュニティに積極的に関わる新たな市民を増やすため～」とあり、今回新たに追加された⑥異文化との交流機会の推進の事業内容等に国際交流フォーラムが記載されている

	が、この事業はコミュニティなのかという疑問がわく。実際に参加したことがあるが、これはあくまでもイベントであるので、それを推進している団体の取組を発信してほしい。自分はふじみ野市でふじみ野市役所の事業として、外国の方の街歩きを行っているが、コミュニティの形成は難しいと感じている。状況としては日本語教室がコミュニティの中心になっており、そこから離れてしまうとコミュニティがない。国際交流フォーラムを主催している団体が、コミュニティの活性化を図れている取組があるのであればそれを発信して、富士見市在住の外国籍のコミュニティの活性化を図っていってほしいと思っている。実際に外国籍の友人に聞かれるがそのような情報にはどうしたらたどり着けるのかわからず、イベントに参加してみて知り合いを増やしてごらんとしか言えない。結局たどり着けず、同じ国同士でのコミュニティに固まってしまっている。計画とはあまり関係がなくなってしまうが、コミュニティを打ち出して、国際交流フォーラムを記載しているのであれば、これが単発イベントではなく、ここが入り口であるというのがわかるとよい。
事務局	以前福祉分野にも携わったときに、やはり同じ国籍同士で固まってしまい、子どもの方が早く日本語を覚え、日本のコミュニティに慣れ、親の通訳者のようにになっているケースが話題になった。大人の外国籍の方については、入り口が難しいのが現状である。国際交流フォーラムの「わいわい☆ワールドトーク」に参加してもらう外国籍の方は、運営に携わっている団体から推薦いただいており、そのような団体と連携していくと、異文化との交流機会も推進していくのではないかと意見を聞いて感じた。文化・スポーツ振興課に確認して、記載内容については調整していきたい。
参加者	国際交流フォーラムが入口となってコミュニティにつながっていくのが理想形だろう。
事務局	おっしゃる通りで、国際交流フォーラムは入口であるのが理想だろう。外国籍の方が他の方や日本人と交流するきっかけや、日本人が海外の文化について触れて学ぶ入口になるだろう。
参加者	このイベントに参加したことがないが、どのような事業か。参加者同士のグループトークがあるイベントなのか。
参加者	グループトークの他にも演奏やダンスなどの発表もある。
事務局	ここ2年間は、「わいわい☆ワールドトーク」というテーマを決めた上でグループトークでの交流形式を行っているが、その前は外国人の主張という企画があり、数人の外国籍発表者の発表を観客が聞くものであった。国際交流フォーラムという交流を謳った事業でもあるので、実際に交流できる企画が良いとして、ここ2年間はテーマを決めたグループトークを行っている。例としては「朝ごはん」というテーマでトークを行い、最後にコーディネーターが各国の朝ごはんについて全体に発表するものである。その後は、舞台発表が行われている。それ以外にも、子どもに人気の海外の服を着てみるブースや着物の着付け体験などの外国籍の方に人気なコーナーもある。他にもセルビアの展示など様々なコーナーが

	あるイベントである。秋で事業が多く行われている時期であることもあります、来る人は限られてしまうこともあるが、入口としての機能が大きいイベントである。
参加者	国際交流を打ち出しすぎるのではなく、日本人がやっているサークルや活動に外国の方が参加するのも一つではないか。日本人を中心のコミュニティだとしても多様性を大切にするのであれば、外国の方だけでなく障害のある方なども含めた本当の意味での多様性を目指すのは理想ではないか。国際交流フォーラムも、国際交流をメインでやっている団体だけでなく、ボードゲームやeスポーツなど楽しいことをやっているコミュニティの人に参加してもらい、皆で楽しむというのも一つではないか。その結果、そのコミュニティに広がっていく可能性もあるだろう。
事務局	共通の何かに一緒に取り組むというのは、立場は関係なく交流できる機会になる。その機会の時はボードゲームやスポーツなど誰でも気軽に楽しめるものができると良いのではないか。今回は国際交流フォーラムを例に挙げているが、同世代の交流も、国籍など関係なく多くの人が参加できる取組にしていくべきであると考える。外国籍の方はまず参加する入口がわからない方が多いため、入口は入口で考える必要がある。今後も生涯学習分野としてだけでなく国際交流などの他の分野とも連携して取り組むべきものである。
座長	他に意見はあるか。無ければこれで議題は終了とする。

4 その他

次回開催について、事務局より今後の予定について説明を行った。
意見、質疑なし

5 閉会